

# ディベート「中京大学の教員研究室(すべての学部)を禁煙にすべきである」

家田重晴\* 勝亦絃一\*

A debate: "Smoking should be prohibited in all buildings  
of Chukyo University including professors' rooms"

Shigeharu IEDA and Koichi KATSUMATA

## Abstract

In May 1999 a smoking regulation was introduced at Chukyo University; Smoking in buildings was prohibited in principle; however, smoking in professors' rooms was left to each professor's discretion. A debate on the topic of "Smoking should be prohibited in all buildings of Chukyo University including professors' rooms" was conducted in October 2000 in a class on "Teaching methods in health education" given to juniors. A questionnaire was administered immediately after the debate.

The results were as follows: After the debate 84.1% of the participants (judges) was for the proposition and 15.9% against. Approximately 90% of participants did not change their position on the issue by observing the debate. Furthermore, no-smoking in the professors' rooms of the School of Physical and Health Education was found to be strongly supported by students. Finally, the pro group received a significantly higher evaluation than the con group.

## I 緒言

中京大学は1999年5月にキャンパスの建物内を原則禁煙としたが、建物内の一部に喫煙場所が残され、また教員研究室の禁煙については各教員の判断に任された。

私たち体育学部の教職専門科目担当者は1999年度から、建物内原則禁煙をきっかけに学生に対する喫煙防止の指導強化を始めた。しかし、2000年に実施した教育実習履修者を対象とする調査で、男子の喫煙率が50%にも上ることが分かった<sup>1)</sup>。

そこで、2000年秋に、教育実習生に対して教育実習期間中の禁煙を義務づけることを決め、2001年度から実施することとした。

さらに、2000年秋に、教職課程履修者の喫煙率を下げるための働きかけという意味も含めて、3年次の「保健科教育法」の講義中に、「中京大学の教員研究室(すべての学部)を禁煙にすべきである」という論題でディベートを実施した。

本研究では、そのディベート実施後に行ったアンケートの結果を中心として報告する。

なお、2000年当時、日本において建物内禁煙

\*教授

の大学は非常に少なかったが、上智大学及び日本体育大学横浜健志台キャンパスでは、教員研究室を含めて建物内が禁煙になっていた。

ところで、2003年5月に健康増進法が施行され、学校、体育館、病院、事務所、官公庁、飲食店等、多数の人が集まる施設の管理者に対して受動喫煙を防止するための措置を講ずることが義務づけられた。これにより各自治体においては、市役所などの公共施設を全面禁煙にするなど、喫煙規制が飛躍的に進みだした。また、大学の建物内についても研究室を含んで禁煙とすることが普通になってきた。そして、中京大学でも2003年9月21日から建物内における喫煙を全面的に禁止した。

したがって、現時点では標記のディベートはもはや成立しないが、本研究の結果は、建物内全面禁煙に至る1つ前の段階における学生たちの考え方を知る上で、非常に興味深いと考えられる。

## Ⅱ 研究方法

### 1. 調査対象・実施日・科目

調査対象者は、保健科教育法の講義に参加した3年次学生160人であった。

また、実施日は、2000年10月26日(3限)、講義科目は、「保健科教育法」であった。

### 2. ディベート

#### 1) 実施方法

講義の中で、学生にグループ・リポートの作成を求めたが、グループ・リポートの題材に「喫煙と健康」を選んだ2つのグループをディベートの担当者とした。そして、実施日の2週間前の授業中にくじ引きをしてもらい、肯定派、否定派を割り当てた。

ディベートの実施方法については、参考文献2の著書から4枚のプリントを作成し、授業中に配付して説明を行った。プリントには「ディベートの進行形式」、「ディベートを行う手順」、「ディベートの台本」、「個人で論を組み立てる」、「個人の意見をまとめる」、「グループで

論を組み立てる」、及び「ディベートの実際例」などについての情報を入れた。

#### 2) ディベートの進行

ディベートの進行は、表1のとおりであった。全体で36分を用いた。

主題肯定グループは5名、主題否定グループは4名であったが、主題肯定グループのうちの1名が司会を務めた。また、各グループの1名は時計係を兼ね、他グループの発表時間を計って終了を知らせた。

#### 3) 各グループの主な論点

論題：「中京大学の教員研究室(すべての学部)を禁煙にすべきである」に対する各グループの主な論点は次のようなものであった。

##### 〈主題肯定グループ〉

以下のような理由から、中京大学の教員研究室(すべての学部)を禁煙にすべきである。

- ・喫煙は本人に大きな健康被害を与えるのでやめた方がよい。
- ・研究室での喫煙は、他の人に受動喫煙の害を与える。
- ・中京大学では建物内が(原則)禁煙になっている。
- ・どうしても吸いたければ屋外の喫煙場所で吸うべきである。
- ・中京大学では禁煙運動が進められている。

表1. ディベートの進行

① 肯定グループ立論	(4分)
作戦タイム(1回目)	(2分)
② 質疑応答(否定 → 肯定)	(2分)
③ 否定グループ立論	(4分)
作戦タイム(2回目)	(2分)
④ 質疑応答(肯定 → 否定)	(2分)
作戦タイム(3回目)	(2分)
⑤ 否定グループ反論	(4分)
⑥ 肯定グループ反論	(4分)
作戦タイム(4回目)	(2分)
⑦ 否定グループ要約	(2分)
⑧ 肯定グループ要約	(2分)
	計 32分

・教員は模範を示すため、喫煙をすべきでない。

〈主題否定グループ〉

- ・喫煙は個人的な問題であり、法律で許されている行為なので、喫煙自体を問題にすることはできない。
- ・教員は大人なので喫煙の害を承知でタバコを吸っているのだから、それについてとやかくいうことはない。
- ・教員研究室は個人の部屋なので、そこで喫煙する権利を認めるべきである。
- ・他の人がいないときに吸うならば、研究室での喫煙は他の人に迷惑をかけない。
- ・研究室で喫煙できないために教員にストレスがかかり、授業が上手く行えなくなると困る。

### 3. 質問紙調査

ディベート終了後に、質問紙調査を行い、全員に質問紙への回答を求めた。

「ディベートを終えて」（資料1）と題する質問紙に、以下の6つの質問を用意した。なお、4)～6)の質問については自由記述での回答を求め、さらに6)の質問については5段階での評価も求めた。

- ①ディベート前の自分の立場 → 主題肯定派、主題否定派
- ②ディベート後の自分の立場 → 主題肯定派、主題否定派
- ③当日の役割：肯定グループ、否定グループ、参観・評価者
- ④立場が変化した理由、変化しない理由
- ⑤ディベートを聞いての感想、またはディベートをしての感想
- ⑥ディベート・グループに対する評価・自己評価（主題肯定派、主題否定派）

この他、次の追加質問に対する回答を自由記述で求めた。これについては板書をし、用紙の下の余白に意見を書くように求めた。

- ⑦「体育学部の教員研究室を禁煙にできたら、それを高く評価するか（よいことだと思うか）」

## Ⅲ 結果及び考察

### 1. 論題に対するディベート後の立場

参観・評価者151人のうち、ディベート後の主題肯定派（中京大学の教員研究室（すべての学部）を禁煙にすべきであるとする者）は127人（84.1%）、主題否定派は24人（15.9%）であった（表2）。男女別では、男子よりも女子に主題肯定派がやや多い傾向であったが、有意差はなかった（ $\chi^2$ （イエーツ補正）=1.80、n.s.）。

### 2. ディベート前後の変化

表3に、151人中のディベート前後における立場の変化を示した。立場が変化しなかった者が多く、約9割を占めていた（肯定派8割弱、否定派1割強）。立場の変化した者は約1割で、否定派から肯定派への変化と肯定派から否定派への変化が同じくらいであった。

ディベート・グループのメンバーについては、主題肯定グループの5人は、ディベートの前も後も肯定派であった。主題否定グループの4人は、ディベートの前は4人とも否定派であったが、このうち1人はディベート後に肯定派に変わっていた。

表2. 参観・評価者の論題に対するディベート後の立場

	人数 (%)		
性別/立場	主題肯定派	主題否定派	合計
男子	68(80.0)	17(20.0)	85(100.0)
女子	59(89.4)	7(10.6)	66(100.0)
全体	127(84.1)	24(15.9)	151(100.0)

表3. ディベート前後の変化（151人中）

	人数 (%)
肯定派で変わらず	119 ( 78.8)
否定派から肯定派へ	8 ( 5.3)
否定派で変わらず	17 ( 11.3)
肯定派から否定派へ	7 ( 4.6)
合計	151(100.0)

### 3. 立場が変化した理由、変化しない理由

資料2に、立場が変化した理由、変化しない理由を示した。

以下に、代表的な意見をいくつか紹介する。

#### 1) 肯定派で変化なし

中京大学自体が喫煙を禁止する方向に向かっているのです、その一部である研究室においても喫煙を抑制しやめていくべきである。

やはり公共の場であり、中京大学が禁煙としているので研究室も一緒だと思うので肯定派である。

個人の問題である、と否定派は言っていたが、タバコは吸っている本人だけではなく周りの人にも影響を与えてしまうから、個人だけの問題ではないと思う。

タバコは本人だけではなく、他人にも影響を与える。このようなことを、タバコを吸う人がどれだけ理解し、自覚しているか。また、研究室というところは、教員のみならず、学生が数多く立ち寄るところである。そのような場所でタバコを吸うという行為は、本来学生の見本となるべき教師の姿を逸脱している。

体に良くないものはやっぱりしない方が良いから。吸う人にすれば辛いことかもしれないが、教育の場、教育するものを育てる場であるから、タバコは良くないとされている以上、大学外で吸うべきだと思う。

肯定グループの意見はまさにその通りだと思いました。否定グループの意見に説得力はなく、タバコはどんな理由をつけても教育者が吸って良いものとは思えないとわかりました。

#### 2) 肯定派に変化

中京大学全体が館内の全面禁煙を実施しているので学生だけでなく、教員も館内で吸わずに喫煙所に行って喫煙すべきだと思います。

やはりタバコは自分だけでなく、他の周りの人たちに対して迷惑をかける行為であるので、決められた場所で、周りに吸わない人がいないときに吸うべきであると思いました。

最初はタバコをやめろということだと思ったけど、部屋ではすわなくて喫煙場所で吸えるんだから立場を変えました。

#### 3) 否定派で変わらず

個人の研究室で吸うなら別にかまわないし、来客の方がみえた時だけ、禁煙してもらえばよいと思う。マナーを守ってもらえば、吸わない人も気にならないし、研究室はそんなに人が出入りしないと思う。だから、先生の研究室までも禁煙にすることはないと思う。

各個人の問題であり、何より研究室はその人の部屋であるため、別に吸っても良いと思う。

#### 4) 否定派に変化

ディベート前は、学内が禁煙になってきているというのに、研究室は禁煙にしないというのはおかしいと思ったが、ディベート後、教員にもストレスがかかり授業が上手く行えなくなると、その害を受けるのは学生なので、研究室は禁煙にしなくてもマナーなどしっかりしていればいいかと思われまます。

肯定的な意見には、中京大学全体が禁煙推進の方向に向かっているのだから研究室も禁煙にすべき、受動喫煙の防止のために研究室も禁煙にすべき、どうしても吸いたければ屋外の喫煙場所で吸えばよい、教員は模範を示すためにそもそも喫煙をすべきでない、などがあつた。これらの意見は、著者らが喫煙防止の指導を行う場合に述べている意見と同様のものであつた。

否定的な意見には、教員研究室については主に教員が使用する場所なのでそこでの喫煙は認めるべきだ、学生や来客がいないときに吸うなら迷惑をかけない、といった意見があつた。しかし、ディベートの中では触れられなかったが、教員研究室での教員の喫煙に対しては学生からの苦情もあるし、強力な換気扇を設置して屋外に排気しない限り有害物質の除去は非常に困難である。さらに、受動喫煙を完全に防ぐためには、教員研究室は禁煙にするしか方法がないと思われる。

### 4. 体育学部教員研究室の禁煙

「体育学部の教員研究室を禁煙にできたら、それを高く評価するか（よいことだと思うか）」という追加質問については、117人が意見

表4. 体育学部の教員研究室を禁煙にできたら、それを高く評価するか

評価／立場	人数 (%)		
	主題肯定派	主題否定派	合計
肯定的	91 ( 95.8)	8 ( 53.3)	99 ( 90.0)
無関心	2 ( 2.1)	2 ( 13.3)	4 ( 3.7)
否定的	2 ( 2.1)	5 ( 33.3)	7 ( 6.3)
合計	95 (100.0)	15 (100.0)	110 (100.0)

を記した。

このうち110人の意見が、肯定的、無関心、否定的のいずれかに分類できた。このうち、肯定的な意見が9割を占めていた(表4)。ディベートの主題肯定派では、約96%が肯定的な回答であったが、主題否定派でも、回答の約半数が体育学部の教員研究室禁煙に肯定的なものであった。

具体的な意見については、主題肯定派と主題否定派に分けて資料3に示した。

意見をいくつか、以下に紹介する。

#### 1) 肯定的意見

体育学部では健康について考える機会が多いので、先生と生徒全員が一体となって、禁煙運動をしていくべきである。

すばらしい事だと思う。やっぱり先生はお手本であって欲しい。

もちろん評価します。中京大学から全国に広がればそれはなおいいことだと思う。

評価する。大学から禁煙運動が広がっていけば良いと思います。

教育するものがタバコを吸っているのはおかしいと思う。高校か中学の先生がタバコを吸っている生徒にタバコを止めろと言えないと思う。高く評価します。

#### 2) 否定的意見

評価しない。その事をするくらいなら歩行タバコとかを禁止する努力をした方が良いと思います。それと全館禁煙といっているわりには、8号館に喫煙所があることがおかしい。

他は他であって別に他がやっているから中京もするという事はおかしいと思う。

#### 3) その他の意見

禁煙にするのではなく先生たちが各自、自発的にしているのならすばらしいことだと思う。

この項目は追加質問であり、学生が回答しているときに黒板に書いて、欄外に回答するように求めたものであった。そのため、熱心に回答していた学生の一部が、追加質問について把握していなかったかもしれない。また、一部には、面倒なので追加質問には答えなかった者もいると思われる。

しかし、回答者の中では、肯定的な意見が9割を占めていたことから、学生は体育学部の教員研究室の禁煙を強く支持していたといえよう。また、単に教員研究室を禁煙にするだけでなく、いっしょに禁煙運動を推進していくべきだとする考え方もかなり見られた。

### 5. ディベートについての感想

資料4に、主題肯定派と主題否定派の別に、自由記述の回答を示した。

以下に、いくつか意見を紹介する。

#### 1) 主題肯定派

〈ディベートをしての感想〉

難しかった。相手の意見に対してとっさに応答するのは大変であった。(否定グループ)

この主題と中京大学の現状からしてみても否定派はあまりにも不利すぎて、否定派の意見が曖昧にしか伝わってなかったので、肯定派の側からして有利すぎた立場のディベートである、とディベートの中でも感じました。(肯定グループ)

〈ディベートを聞いての感想〉

肯定派の方が否定派よりも意見がしっかりし

ていた。研究室についての論議だけど、タバコの害のことも考えられたから良かった。

主観的な意見は説得力がない。科学的なデータを示すと説得力があると感じた。

肯定派はよく調べて自分の意見に取り入れていたようですが、否定派は、自分の考えだけで話していたので、もっと資料を集めるべきだと思います。

このディベートによりさらに喫煙について考えさせられた。自分は喫煙しないのでそちら側からしか見ることが出来なかったけど、客観的に見ることによって新たな発見もあるのではないかと思った。

## 2) 主題否定派

〈ディベートをしての感想〉

自分は否定派でディベートに参加したが、相手チームの準備のよさに圧倒された。自分の言葉で思っている事を口にするのは難しい。(否定グループ)

〈ディベートを聞いての感想〉

ディベートの主題は教員研究室を禁煙にするだったのが、ディベートの内容は「タバコを止めるべきだ」に内容が変化していたような気がする。

喫煙はやめて欲しいとは思う。しかし、学生は指定の場所、先生は研究室で吸えば、まだいいと思う。決してこの場所で害を与えないわけではないと思うが、研究室でも強制的に禁煙にする必要はないと思う。賛成反対意見両方を聞いて、作戦タイムに自分もじっくり考える事が出来ました。今までタバコについてたくさんの授業を聞いたが、最もタバコについて考える事が出来た。

今回は自分たちの考えでどちらかに分かれたのではなく、決められたので少し主題否定グループは不利な感じがあった。

主題肯定派にも、主題否定派にも、「主題肯定派に有利なディベートであった」という意見が散見された。ディベートの進め方に関しては、「肯定派はよく調べて話していたが、否定派は調査不足であった」という意見がかなり見

られた。「ディベートによって、喫煙問題について深く考えることができた」という、ディベートの意義を認める意見もかなり見られた。

以上のことから、今回のディベートは最初から肯定派にかなり有利なものだという印象があったものの、多くの学生はディベートを聞くことによって喫煙問題についての考えをより深めることができたようであった。

## 6. ディベートのグループに対する評価

全体では、肯定グループに関する評価は、1点が1人(0.6%)、2点が6人(3.9%)、3点が36人(23.4%)、4点が85人(55.2%)、5点が26人(16.9%)であった。また、肯定グループに関する評価は、1点が7人(4.5%)、2点が42人(27.3%)、3点が75人(48.7%)、4点が23人(14.9%)、5点が7人(4.5%)であった。1・2点、3点、4・5点の3段階にまとめてカイ2乗検定をしたところ、否定グループよりも肯定グループに対する評価の方が良いことが分かった( $\chi^2$ (イエーツ補正)=88.42、 $p < 0.01$ )。

表5に主題肯定派による各グループに対する評価を示した。全体での結果と同様、3段階でのカイ2乗検定の結果、肯定グループに対する評価の方が良いことが分かった( $\chi^2$ (イエーツ補正)=102.15、 $p < 0.01$ )。

表6に主題否定派による各グループに対する評価を示した。肯定グループと否定グループに対する評価は、ほぼ同様であった。

自由記述の回答は、「ディベートについての感想」と重複する内容が少なくなかったので、ディベート担当者による評価のみを以下に紹介する。

### 1) 主題肯定グループ

〈自己評価〉

意見が出しやすかったこと、資料もある程度そろっていたこと。これらを考えてみると、良いものができたと思う。感想で言われたようにもう少し広く考えることができたならもっと良かったと思う(3点)。

思っていたことを十分にまとめて返答するこ

表 5. 主題肯定派による各グループの評価（1～5点）

グループ/点数	人数 (%)				
	1点	2点	3点	4点	5点
肯定グループ	0 (0.0)	4 (3.1)	24 (18.8)	76 (59.4)	24 (18.8)
否定グループ	6 (4.7)	42 (32.8)	60 (46.9)	15 (11.7)	5 (3.9)

表 6. 主題否定派による各グループの評価（1～5点）

グループ/点数	人数 (%)				
	1点	2点	3点	4点	5点
肯定グループ	1 (3.8)	2 (7.7)	12 (46.2)	9 (34.6)	2 (7.7)
否定グループ	1 (3.8)	0 (0.0)	15 (57.7)	8 (30.8)	2 (7.7)

とができなかったことが少し悔やまれた。(2点)

〈相手グループの評価〉

反論はとても辛かったと思うが、良く意見が出せたと思う。しかし、意見が曖昧であったと思うし、立論するにあたって資料などが足りず、根拠が個人の意見だけになっていたように思う(3点)。

教授にも愛煙家がいると思うので、それをもっと打ち出すために研究室(教授)独自の喫煙所を設けて喫煙を抑制すると言うことを全面的に出すともっと肯定派も納得いく考えにつながっていったと思いました(3点)。

(主題肯定は、2名のみが評価を記した。)

2) 主題否定グループ

〈自己評価〉

自分たちは相手の質疑応答に対してもしっかりと答えられたので良かったし、苦しい立場であったけれども、しっかりできたと思う(5点)

あまりまとまりがなかったけれど、ぼちぼちってとこだと思う。下調べしたけど、あまり成果を出せなかった(5点)。

意見を崩すことなくディベートしていたからよかった(4点)。

自分が発表したのが最高です(5点)。

〈相手グループの評価〉

もっと色々な観点から主張できたのではないかと思います(2点)。

チームワークよくしっかりみんなで考えて、

まとまった意見を言えていたと思った。下調べもきちんとしていたようだった(4点)。

準備はすごくよかったと思うが、もっと伝えることができる議題だと思う。研究室という場所にもっとこだわりをもって意見を言って欲しかった(3点)。

すばらしかったです(5点)。

ディベートの感想と同様、5段階の評価においても、参観・評価者は主題肯定グループを主題否定グループよりもやや高く評価していた。資料を用意するなど、事前の準備がしっかりしていたこと、要点を整理して主張できたことなどへの評価だと考えられた。

なお、主題肯定グループの自己評価は、参観・評価者の評価に比べてやや辛く、逆に主題否定グループの自己評価は、参観・評価者の評価に比べてかなり甘いようであった。

## 7. 学校における喫煙規制の現状

近年、喫煙及び受動喫煙による健康被害が、かなり明らかにされてきた。<sup>3)-4)</sup>そして、喫煙問題の重大性を考慮し、日本でも喫煙規制の強化を求める声が大きくなった。

2000年に発表された厚生労働省の「健康日本21」<sup>5)</sup>では、未成年者の喫煙率0%、公共の場所における分煙100%などのタバコ関連目標が設定されたが、その中で医療関係者や教育関係者には、国民に対する模範として禁煙することが

求められた。さらに文部科学省が2003年4月に各大学や都道府県教育委員会に送った通知においても、教育機関は「禁煙を原則とすべき」ことが示された。

そして、前述の「健康増進法」の施行も追い風となって、都道府県や市町村においては公立学校の敷地内禁煙が急速に広がっている。<sup>6)</sup>2003年度末で、都県単位の実施（全公立学校または全県立・都立学校）または実施決定も、すでに青森、宮城、秋田、茨城、東京、福井、静岡、岐阜、愛知、三重、和歌山、徳島、愛媛、佐賀の14都県に上っている。

2005年には、本学に新生入生として入ってくる者の大半が、敷地内禁煙の高校を卒業した生徒になる。また、すでに敷地内禁煙を実施している大学や実施予定の大学<sup>6)</sup>もかなりある。これらのことから、次回に喫煙規制の関係でディベートを実施するとすれば、その論題は「中京大学を敷地内禁煙とすべきである」になるであろう。

#### IV 結語

2000年秋に実施したディベートに関して、質問紙調査によって以下のことが明らかになった。

1. 参観・評価者151人のうち、ディベート後の主題肯定派は127人（84.1%）、主題否定派は24人（15.9%）であった。
2. ディベートの前後で立場が変化しなかった者が多く、約9割（肯定派8割弱、否定派1割強）を占めていた。立場の変化した者は約1割で、否定派から肯定派への変化と肯定派から否定派への変化が同じくらいであった。
3. 主題肯定派では、喫煙が周囲の者にも悪影響を与えるので研究室も禁煙にすべき、中京大学が禁煙を進めているので教員も協力すべき、教育者はタバコを吸うべきでない、などの意見が代表的なものであった。
4. 主題否定派の意見としては、教員研究室は主に教員個人が使う場所なので教員の判断に任せるべき、他の人がいないときには吸って

も良い、などの意見が多かった。

5. 体育学部教員研究室の禁煙に関しては、学生はこれを強く支持していた。さらに、教員と学生がいっしょになって禁煙運動を推進していくべきだとする積極的な意見も見られた。
6. ディベートについての感想では、今回のディベートが最初から肯定派にかなり有利なものだという印象があった、主題肯定グループの方が主題否定グループよりもよく準備してしっかり討論していた、ディベートを聞くことによって喫煙問題についての考えをより深めることができた、といった意見が多く見られた。
7. グループに対する評価については、参観・評価者は、5段階評価において主題肯定グループを主題否定グループよりも高く評価していた。しっかりした事前準備や整理された発表が良かったと考えられる。

#### 参考文献

- 1) 家田重晴、勝亦紘一、大塚貴史、白井若菜、斎藤禎一：大学のタバコ対策と教育実習履修者の喫煙習慣等との関連、学校保健研究、45：30-42、2003
- 2) 佐藤喜久雄、田中美也子、尾崎俊明：中学・高校教師のための教室ディベート入門、創拓社、東京、1994
- 3) 喫煙と健康問題に関する検討会：新版 喫煙と健康—喫煙と健康問題に関する検討会報告書、保健同人社、東京、2002
- 4) デビット・シンプソン著、タバココントロール リソースセンター発行、日本医師会訳：医師とたばこ、日本医師会、2003
- 5) 健康日本21企画検討会、健康日本21計画策定検討会編：健康日本21（21世紀における国民健康づくり運動について）、健康・体力づくり事業財団、2000
- 6) 日本学校保健学会「タバコのない学校」推進プロジェクト ホームページ（中京大学体育学部ホームページの「リンク集」、及び日



本学校保健学会ホームページの「リンク集」  
にある。）

**資料1**

○ ディベートを終えて

2000.10.26

\_\_\_\_\_年 組 \_\_\_\_\_番 氏名\_\_\_\_\_

主 題：

1. ディベート前の自分の立場 → 主題肯定派、 主題否定派
2. ディベート後の自分の立場 → 主題肯定派、 主題否定派
3. 当日の役割：肯定グループ、否定グループ、参観・評価者

4. 立場が変化した理由、変化しない理由

5. 1) ディベートを聞いての感想、または
- 2) ディベートをしての感想（ディベート・グループ）

6. ディベート・グループに対する評価・自己評価

1) 主題肯定グループ 点数： 1 - 2 - 3 - 4 - 5 点

2) 主題否定グループ 点数： 1 - 2 - 3 - 4 - 5 点

## 資料2. 立場が変化した理由、変化しない理由

### A. 主題肯定派

中京大学全体が館内の全面禁煙を実施しているので学生だけでなく、教員も館内で吸わずに喫煙所に行って喫煙すべきだと思います。

肯定グループであったのだが、やはり禁煙にすべきであったと思う。喫煙所があるのだから、研究室で吸わなくてもよいと考える。研究室は個人のものではなく中京大全体のものであるから、個人の自由だけが通るべきではないと思う。

中京大学自体が喫煙を禁止する方向に向かっているので、その一部である研究室においても喫煙を抑制しやめていくべきである。

タバコを吸うなど言っている理由ではなく、タバコは吸える場所はあるのでそこで吸えばいいと思う。

やはり公共の場であり、中京大学が禁煙としているので研究室も一緒だと思うので肯定派である。

周りに与える影響があるということで個人だけの問題ではなくなるし、中京の向かう方向として禁煙となっているので教授たちが向かわないのはおかしい。

最初はタバコをやめろということだと思ったけど、部屋ではすわなくて喫煙場所で吸えるんだから立場を変えました。

タバコは他人に与える影響が大きいので、みんなが出入りする研究室では吸うべきではない。吸っている人には、部屋の中に残っている煙が感じられないことが多いのですが、吸わない人にとってみると部屋の中に・・・。

学生で喫煙運動をすすめているのに、先生が研究室で喫煙するというのは納得できない。こういった運動をすすめているのは、喫煙者、禁煙者、全ての人々の体のことを考えて行っている、生活の中にタバコを入れないように努力していけば、ストレス等もなくなると思ったから。

私自身タバコが好きではないし、教える立場である教師がタバコを吸っていて、生徒に「吸うな」と言っても、何一つ説得力がないと思うから。でも、今すぐやめろと言っても無理なことだと思う。

一番の理由は、自分が喫煙者ではないので、周りで吸われると嫌な気分になるから。中京大学としては、全館禁煙としていて、禁煙運動を進めているはずなのに、建物内なのに、教員研究室だけで喫煙できるのはおかしい。ポイ捨てがないとか、マナー違反しないとかが問題ではなくて、決めたことは守ってほしい。

やっぱり自分が吸っていないから、吸う人の気持ち分からないでもないけれど、肯定の立場は変わらなかった。研究室はいろんな人が出入りする場だと思うので、すべての人が、快く過ごせる場であってほしい。

個人の問題である、と否定派は言っていたが、タバコは吸っている本人だけではなく周りの人にも影響を与えてしまうから、個人だけの問題ではないと思う。

研究室で吸わないようにしようというだけで、タバコをやめろと言っているわけではないし、周りの人に対する影響は明らかだと思うから。あと、個人的にタバコは嫌い！だからです。

中京大学の中で全館禁煙になり、禁煙運動が行われている。学生の禁煙に関してもそうだが、教員研究室も禁煙活動を行い、自分たちの健康、日本のためにも禁煙にしていけばよいと思う。

別に喫煙してもよいが、喫煙所を決めればよい。学内には全面禁煙なので、学生に禁煙しろというのなら、教員は手本にならなければならない。研究室は禁煙にし、喫煙所を作ればよいと思う。ということで自分の意見が変わりました。

タバコが及ぼす様々な悪影響はどうにもできないし、否定派の意見によって立場を変化させるという気にはならなかった。

やはり全館禁煙になっている中京大学なのにその館内にある研究室だけが喫煙を許されてい

たら話の筋が通らないし、大学全体で取り組んでいることだから、教員も協力すべきであると思いき最後まで意見は変わりませんでした。

タバコは吸っている人も周りにいる人にも害を与えるものであり、健康のためによくなく、中京大学は全館禁煙にしているのであるし、教員研究室も大学の一部であるから禁煙にすべきであると思う。

キャンパス内全館禁煙となっていて、新聞にまで載せられているのに、教員研究室で、タバコを吸うことはおかしいと思う。教員研究室もキャンパス内なので喫煙所を利用すべきだ。

否定派の意見は自己中心的。

教員教授たちに禁煙を強要しているわけではなく、その部屋の内ですえ吸わなければ良いのだから、肯定する。喫煙できるエリアがどこにもなくなるわけではないのですし。

タバコは有害であり、他人にも副流煙という形で悪影響を与えているのでタバコはいけない。また、学生が禁煙なのに教員が研究室で吸っているのは大学の方針として矛盾している。

全館禁煙なのに喫煙場があるのがやっぱりおかしい。中京大学で禁煙を決めたなら、生徒たちのお手本である。先生方から訴えかけるべきである。先生方の中に否定派の人がいるなら、中京大学の名を出して禁煙を訴えるべきではないと思う。

生徒が禁煙に協力しているのに教員が協力していないのはおかしいので研究室を禁煙にするのは当たり前、もししないのなら、館内すべて禁煙ということは止めるべきだと思う。生徒にしめしがつかない。

やはり禁煙にした方がいい。各自の自由は確かに正しい。でも、吸っている人はそれでいいが、吸わない人には害である。自分は吸わないのでこういう体験は良くあるけどかなりの迷惑である。だから禁煙にした方がいい。

たばこは身体に害を与えるので、健康のためによくなく。だから中京大学の教員研究室も禁煙にすべきである。

肯定グループの意見はまさにその通りだと思

いました。否定グループの意見に説得力はなく、タバコはどんな理由をつけても教育者が吸って良いものとは思えないとわかりました。

私自身がタバコの煙が非常に嫌いだし、肯定派の意見がもっともだと思いました。

自分が喫煙をすることがないので、喫煙するということが考えられないため。

中京大全体を禁煙としている中で教員研究室だけが禁煙でないのはおかしいと思う。又、他に喫煙できる場所を作れば何の問題もない。

自分が吸わないのが第一。タバコを吸う人間が正直うざい、邪魔！！

喫煙は明らかに周りの人に害を与えている。やめることでストレスがたまったり、何事にも身が入らないというが、きっと長期的な視野で見るとプラス面の方が多い。

教員研究室は教員だけでなく学生も利用するところであり、多くの人が利用するところはマナーや周りの人にも害を与えると禁煙にすべきであると考えた。

個人的なことしか考えていないから。自分が吸っていないから。

自分がタバコを吸わないので、健康面を考えるとやはり、たばこは良くないと思います。周りの人にも迷惑がかかる。いくら、仕事の能力が低くなるとか、ストレスがたまるといっても、周りの人の方が吸っている人よりも、体に良くないので、周りの人のことを考えてもらいたい。

学校内が禁煙を目指しているのに、授業を教える教員たちだけが学校内で喫煙が出来るのはおかしいと思うから。

喫煙というのは「百害あって一利なし」という言葉があるように、何も良いことがないと思うから。

タバコは本人だけではなく、他人にも影響を与える。このようなことを、タバコを吸う人がどれだけ理解し、自覚しているか。また、研究室というところは、教員のみならず、学生が数多く立ち寄りところである。そのような場所でタバコを吸うという行為は、本来学生の見本となるべき教師の姿を逸脱している。

喫煙は個人の自由であるが、他人に迷惑はかけてはいけないと思う。それを考えると研究室というのは教員個人の物だけでなく、数人が出入りするところなので、禁煙にした方がよいと思った。

僕自身タバコは吸わないし、他人の吸っている煙を吸うことさえ嫌である。それだけタバコが嫌いであるだけに、吸っている人物そのものも、どうしてもその面に関しては好きになれないところがある。教員といえども人間であるから全てを完璧にすることは難しいと思うが、出来れば避けられる非難の声には答えるべきだと思う。タバコに関しては、吸わなくなるなり、量を減らすことにより必ず良い効果があると思うのでなおさらであると思う。

やはり他の人のことをしっかり考えて欲しいと思ったから。

やっぱりタバコを指導する最先の立場の人たちが吸っていたら、おかしいと思うので、肯定派として変化しなかった。

タバコはいかなる理由があるにせよ体に良くないことなので喫煙すること自体を減らしていくことが教育に重要な事はわかっている。大学の建物なので自分の家ではない。教員の研究室は学生のための部屋だから喫煙は許されない。

今現在ではどこの会社でも社内禁煙となってきたので、研究室もいくら個人の部屋だからといっても仕事場であるので、禁煙にした方がいいと思う。先生であるわけだし、禁煙にするというよりも、タバコを吸うこと自体をやめるように努めていって欲しい。

自分も吸わないから、身体のこととか考えたら禁煙にすべきだと思っていたがディベートを聞いて、日本で認められているからだとかニコチン切れの症状が出やすくなって講義に影響してくるだとかは、研究室を禁煙にすべきであるということとは話が少しずれていると思う。タバコを止めろというのではなく、喫煙所をもうけてそこで吸えばいい。

やはりタバコは他人に迷惑をかける物だから良くないと思う。自分だけを考えていてはダメだと思う。

喫煙が良くないことという考えは変わらないからです。吸う行為自体に反対なのではなく、吸うことで本人にも、それより周囲の人に「健康を害す」といった罪とも言えると思うことが起こるからです。禁煙パイポやのどの菓子をタバコのように吸うのなら、何も言いません。本人が良ければいい、ではないと思います。たとえばいいと言っている他人に迷惑をかけること、マナーを守って迷惑をかけないと言っても、人間として生まれてきた者が与えられた命を縮める行為こそ罪なのだ！ということを感じている人たちに解ってもらいたいからです。

禁煙にしよう！！と私達に訴えている中京大学の教員が自分たちは喫煙していたらおかしいと思う。タバコが身体に悪影響を与えるのは教員たちも知っているのだから、禁煙にすべきである。

体に良くないものはやっぱりしない方がいいから。吸う人にすれば辛いことかもしれないが、教育の場、教育するものを育てる場であるから、タバコは良くないとされている以上、大学外で吸うべきだと思う。

教員として生徒に喫煙について教える立場の人が、研究室でタバコを吸っているのは間違っていると思います。生徒の信頼を無くすと思います。

ある程度約束ごとを作らないと、吸わない人間が迷惑をこうむることになる。一般意見として、タバコは身体に害を与えるものなので、吸わない人間が、被害を受けてしまうことはおかしいと思う。

タバコを吸うことは自由かもしれないけど、タバコを吸うことによって、吸う人や、周りの人の健康を害することは確かなことだから、立場は変化しませんでした。

中京大学で徹底的に禁煙を実施するならば、教員研究室も禁煙にするのは当然である。大学生がタバコを吸っているのは、見ていて気持ちの良い気はしない。外で吸っているのもやめてほしい。教員というのは、生徒の模範であるから、逆に一番最初に禁煙にするエリアは「教員研究室」なのでは？と思う。マナーを守れば何

の問題もないのだが、残念ながら中京大生は皆マナーを守れないのだ。

喫煙している人たちを見ても、どこでもタバコを吸い、どこにでも捨てる。マナーのいい人もいると思うが、道路に灰皿ごと捨てる場所を何度も見ている。吸う人は癌になりやすいし、身体への影響も計り知れない。それは自業自得であるけど、吸っている人の周りの方々が、身体には悪いという事実がある。何でその人のために自分が病気になるなければいけないのか、腹が立つ。迷惑きわまりない。

喫煙しないことによって、プラス面が多いことを知ってからです。動悸や息切れ、冷え性がなくなったりするという事実もあります。喫煙することで、教授がイライラして講義に集中できなくなるという話も出ましたが、他の人に与える害のことを考えるとやはり吸わない方が良いと思う、私は臭いだけで不愉快になるし、その場から離れようと思います。

肯定派です。教師になりたい私が喫煙者で生徒に禁煙を勧めるのでは説得力がないと指導しているが、教授自体研究室でタバコを吸っているのでは、それは私達に説得力が無いというのと同じだと思う。まず、研究室を禁煙にしてから全館を禁煙にすべきである。

私は自分がタバコを吸わないし、吸うのも嫌いだから、どうしても、禁煙を広めたい。ディベートを聞いていても、肯定派の人の「研究室を禁煙にするだけで、やめろとはいっていない」というのが、その通りだと思った。否定派が「大人だから、マナーは守れる」とか言っていたが、それなら研究室の中だけくらい禁煙にするべきだ。

いけないものはいけない。周りの人のことを考えて行くべきであるから。今まで、学校だけでなく会社とかでもそういうように禁煙の所が増えてきているので、考えるべきだと思った。

否定派の意見にいまいち説得力がなかった。

他人に迷惑をかけることは行くべきではないと思います。学校だけでなく社会的にそのように変化して行って欲しいです。

肯定派の意見を聞いていてそれにすごく納得

できたから。何よりも、自分自身が肯定する意見として「生徒に強制的に禁煙をさせているのに、指導者であるべき人たちが学内であるのに研究室を禁煙にしないのは甘えだし、無責任である」という意見を持っているので変わりませんでした。

自分はタバコを吸っていないので、肯定グループの論じていることに共感できた。それに、否定グループは同時にいっているように思え、また肯定グループの方が良い発言をしていたので、自分の立場が変化しなかった。

タバコを吸っている人には、周りの人の迷惑がわからないと思う。自分の体が悪くなるのは勝手だけど、他の人に迷惑をかけないで欲しい。あと、タバコを車から捨てたり、平気で道に捨てたりする人もいるので、タバコ自体を廃止すべきである。

タバコが体に悪いことは誰もが知っていることだし、また周囲の人に与える影響も明らかで、そのことを考えると肯定です。スポーツをする人がタバコを吸うということは、スポーツに対する考えが甘い。そのスポーツを教えるための職場においてタバコを吸うことは賛成できません。

否定派の意見は個人のことしか考えていないので、他人に迷惑をかけることがわかっていない。だから立場は変化しない。

否定派の意見は個人の勝手というようなことだけど、周りにいる人の健康を損なう危険があるということを否定しきれていなくなった気がする。

学校全体が禁煙という状況になっているのに研究室だけが喫煙が許されているのはおかしいと思う。またタバコを吸って害があるのは自分だから別に吸っても良いというのは、とても自分本意な考え方だと思う。周りに悪影響を及ぼさないためにも禁煙にすべき。

変化なし。やはり校内（学舎内）は禁止ということで、要となる点は研究室がそれに含まれるか、別物と考えるかであろう。私は同じものと考えている。否定派の訴えることは言い訳と言える。私は喫煙者だが、我慢し耐えられる。

大学全体の方針として禁煙活動が行われているのに、教員だけを特別扱いするのはどうかと思う。周りの害を考えると、校内に喫煙所があるのだから、そこで吸うべきであると思う。

変化なし。やっぱりタバコは身体に害であるし、周りにも迷惑であるし、学内が禁煙になっているということで、学生の方もそれを守っているから、教員研究室も禁煙にするべきだと思ったから。そうすれば喫煙者のタバコに対する考え方が変わると思う。

変化をしませんでした。理由は、学校自体がキャンパスの中を禁煙としているので、研究室だけが吸っているというのはやっぱりおかしいと思います。

自分は非喫煙者なので喫煙する人は自分たちにとって害になるから。

否定派は喫煙している本人のことしか問題にしておらず、個室だからといって自分の部屋ではないので、禁煙にすべきである。大学が禁煙運動を進めているのなら、愛煙家の教員は場所を変えてすべきである。

禁煙キャンペーンなどを行っていても、手本である教員たちが学生の前で喫煙をしているのは永久に学内全てが禁煙にはならない。

どう考えても個人的に、タバコが嫌いであるため、肯定派、否定派がどれだけ力説しても減多なことではないと思うから。

やはりタバコを吸うことは周りに害を与えることが一番禁煙①肯定派の立場から変化しない理由です。

否定派の意見を聞いたところで、タバコが有害であるということに変わりがないから。もともと吸っていなければ禁煙したときにでる症状などは出ないはずだから、喫煙しない自分から見ても禁煙は当然だと思う。

研究室は個人の物という見方も分からないでもないが、学校全体として禁煙という流れが進んでいるのだから、立場的な変化はしない。

学内禁煙を目指しているのなら、教員研究室もすべきである。喫煙所をもうけてあるので、そこで吸えばいい。そこなら、個人でも吸いたい人の集まりなので、他人には迷惑をかけな

い。肯定派の主張と同じ意見だったため。

自分が吸わないこともあって、タバコには嫌悪感がある。個人一人の問題ならばいいが、他人にも害を与えるということを考えると禁煙すべきである。教員研究室には助手の方や、生徒も出入りする所なので、そういうことを考慮すると、やはり教員研究室は禁煙すべきであると思う。

学生に校内禁煙、としているなら教員も同じにすべきである。と考えていました。しかし、ディベートをしている間は「禁煙にすることもないかな」と少し思いました。研究室に一人の時や、人に迷惑をかけないのであるのならば良いと思いました。しかし、学生と同じように、教授用の喫煙所を設ければ、研究室は禁煙にすべきだと思います。

いくらマナーが守れていても副流煙の害の方が大きいのは事実であり「自分が良ければよい」という考えではダメだと思ったから。

やはり個人の自由だと言って他の人にまで悪影響を与えるタバコはやめた方が良くと思う。また、研究室といっても他の人の利用もあるので、他の人のことも考えるべきだと思ったので。

他人からしてみると、煙がうっとうしい。自分が吸うのは良いが他人には迷惑がかかるからダメ。

校内禁煙と決めたのは、学校側であり、教員もそれにしたがうべきであると思う。たばこを吸うなどいっているのでは無いし、教員も一人の大人なんだから、喫煙所まで行くぐらいの規則は守れるはず。生徒も我慢しているのだから、教員も我慢して欲しい。

基本的にタバコは嫌いだから、研究室も禁煙にすべき。

肯定派では学校全体が禁煙に使用とすすめているのに研究室だけ特別扱いみたいにするのはやっぱりおかしい。そこについてきた肯定派に私もそうだと強く思ったから。

禁煙にすべきだという、科学的根拠と、自分だけ気をつければよいという自己中心的な考えが無くて、周囲のことを考えていると思った。

研究室も禁煙にすればよい。教員だって職場に変わりはない。会社でも喫煙室というのを設けている。学生に禁煙運動を勧めているにもかかわらず、リードしていく立場である教員の研究室が禁煙で無いというのはおかしい。

肯定派の意見で、学生の使う講義棟などは禁煙にして、教員の研究室はしないというのはおかしいというのに私はとても賛成である。教員がタバコを吸うというのもおかしいと思うし、そんな人たちに、未成年にタバコを吸うなどとも言えないと思うので。

個人の場合ではないということが大きく、喫煙する事が特別であるのだから、決められた場所で他に迷惑をかけないべきであるから、立場は変化しません。

タバコは個人の問題と思っていたが、学校自体で禁煙という方向に向っているのなら肯定だ。体育を研究するもの、教える者が喫煙していたらしめしが無いと思う。

全ての人にタバコを吸うなという意見には賛成できないが、他の人に害を与えると、特に部屋という狭い場所であれば禁煙にすべきだと思った。

変化しない理由として、体育の教員を目指すもの、保健のことを勉強している者が、吸うことは好ましくないとして、教授たちが集まって研究室以外の禁煙を認めたとしたら、それは学生たちから言わせてみれば、体育の教員が目指す者を指導する立場、いわゆる保健や健康教育のプロが吸っているのは私達には理解できない。私達にタバコを吸うなというなら、まず自らを正せ！と言いたくなる。

やはりタバコは自分だけでなく、他の周りの人たちに対して迷惑をかける行為であるので、決められた場所で、周りに吸わない人がいないときに吸うべきであると思いました。

はっきり言って自分の意見があまりにも固定されている。タバコの禁煙の流れが進んでいる現代において生徒の見本となる先生がやはりタバコを吸うべきではないと思う。

建物の全てが禁煙にするのであるならば、研究室も禁煙にするべきである。教員の集中力が

無くなるとか、授業が緩慢になると言うのは言い訳で、それは学生も同じだと思うから。なのに学生の方だけ強制的に禁煙にするのは間違っている。

主題肯定派は変わらないんですけど、各個人の問題であるといった否定派の意見にも少し賛成するところがあります。法的に禁煙にしたのならともかく、法的には何の問題もないのだから仕方がないのかな？と思いました。

肯定派の方が客観的であり説得力があった。医学的、現在の状況など色々な理由からわかりやすかった。

やっぱり大学の校舎全体が禁煙にしているなら生徒同様、研究室も禁煙にするべきである。

どちらもいまいち説得力がなかった。

肯定派の人が言った「妊婦のそばでタバコを吸ってはいけない」という言葉で心が動きました。また、研究室に喫煙所を設けるのはちょっと無理があると思うので、肯定派に変わりました。

初めは先生方のモラルの任せ、先生が研究室での禁煙を心がければいいと思ったが、やはり「大学」という規模全体で禁煙を目指すならきっぱりと研究室も禁煙にするべきだ。

ディベートを聞く以前から、自分自身が喫煙に関して、かなりの抵抗感や不安感を覚えているので、その先入観が打ち壊されることはありませんでした。

タバコが身体に及ぼす影響は、とても大きく周囲にも悪影響を与えるからである。教授は教育者の一人であり、教育の場でくらは禁煙にしても良いと思う。

タバコが身体に有害なものであるということは、絶対的なことであり教育の場にはふさわしくないものであるから。

タバコを吸う、吸わないは個人の問題かもしれないけれど、周囲の人のことを「思いやる」気持ちも、研究者である先生方にも必要だと思います。禁煙者にとってタバコの煙はすぐ迷惑で気持ち悪くなることもあります。だからこそ、研究室も禁煙にするべきです。

研究室は個人の物ではなく、学校のものであ

る。よって、生徒や他の人も出入りするので、禁煙にすべきであるという意見に賛成であったから。

先ずタバコは人体に害をなす。というゆるぎのない事実がある以上、自らの意見を覆すような考えは出てこないで変化しようがない。タバコというものは、もはや麻薬のようなもの考えることが可能なので、国が禁煙という政策をだしてもおかしくないくらいだからです。他者の存在しない場所で吸うと言っても自らに害をなしている以上、もっと考えるべきです。

やはり喫煙というものは、他人にも影響が起るので、禁煙にするべきである。自分は吸う権利があるといても他人には、誰も障害されない権利があると思う。日本の人々はそのような権利があるので、禁煙にしている人々の所では、禁煙にするべきではと思う。

自分が吸わないので、吸わない人にも影響を与えているといことが一番の理由である。そして中京大学全体で禁煙活動を行っているのだから、研究室だけ良いというのはおかしいと思う。今すぐにタバコを止めろということではないので、研究室を禁煙にすることは、喫煙者の禁煙のきっかけになるかもしれないし、みんなが健康になるために必要なことだと思うから。

喫煙自体、体に悪い影響を与えるし、やはり一番は生徒は訪ねてくるわけだから、そこで煙がこもっている部屋には入りたくないし、入りにくいと思います。教育として禁煙を進めているわけだから、教員が吸っていたら説得力に欠けると思います。

この主題にそって言えば、中京大学が一応禁煙に向かって対策をしているというのに、教員の部屋はいつも吸って良いとなるとおかしいと思った。それ以前に、タバコ自体絶対に体に良くないし、周りにも悪影響なので、この世の中から無くなって欲しい。

タバコが身体に有害なことは、話を聞く前も後も変わらないことだし、その人のことを考えても、周りの人のことを考えても禁煙にした方が良いと思う。

タバコを吸いたければ喫煙所に行けばいい。学内を禁煙にしているのなら、その通りにすればいい。否定派の人の言っていることを聞いても、喫煙者の勝手な考えに思う。

大学全体が禁煙になっているので、喫煙所を設けて、全体的には禁煙にした方がよいと思います。

中京大学全体が禁煙キャンペーンをしている中で、教員研修室だけがOKなんておかしいと思うし、(保健体育の教師)生徒の上に立って教えるものが吸うというのは違うと思います。「喫煙は良くないから止めろ」という者が吸っているのは全然説得力がないと思う。

学内が禁煙となっているのに、研究室が喫煙可能というのはおかしいと思いました。

立場が変化しない理由は、否定派の意見に説得力が泣く、教員は研究室ではなく、喫煙所または外でタバコを吸えばよい。「タバコは個人の自由、他人は関係ない」というのはどうか?と思う。

ディベートの後でもやはり肯定派。吸わない人にとったら迷惑だし、決められた場所に行って吸えば自分も吸えるし、吸わない人も喜ぶと思う。それくらいの気づかひが必要だと思う。

私はタバコを吸わないから、タバコの煙がまんえんしているところはやっぱり苦手。だから否定派の意見を聞いて納得するところもあるけど、体に悪いことには変わらないから私の気持ちも変わらなかった。

自分がタバコを吸わないので、側でタバコを吸われるとかなり嫌な思いをするから。それと、大学内は全て禁煙になっているのに教員研究室だけタバコを吸っても良いというのはおかしいと思う。

立場変化せず。元々絶対に肯定派であり、教師禁煙による授業の低下という意見にうなずけたが、教員にとって授業は仕事であり、禁煙で仕事が出来なくなるとは、責任感が無く、喫煙OKの理由には出来ないと思うという意見の方が正しいと思ったから。

禁煙を指導する立場の教員が喫煙してはしめしがつかないし、職場でもタバコについて



のマナーがなされていないとダメだと思う。だから立場は変化しない。

教育する立場が、喫煙していたら学生にしめしがつかない。体育学部があるから身体に影響を起こさせないようにしないようにとか先生も気をつけなさいといけないと思うから。

まず第一に、中京大学は教職課程をとる生徒のいる大学である。教育者を育てるさらに上の教育者として、学内での禁煙は必要である。また、職場であるので。周囲の人に及ぼす影響も必ず考えなければいけないから。マナーとして。

私は昔からタバコの煙が大嫌いで、研究室でも室外でも喫煙される事が迷惑なので、ディベートで何を言われたとしても意見は変わらないです。

学内が禁煙になったのに、研究室だけがOKなのはおかしいし、喫煙者に完全に禁煙にしろと言っているわけではなく、マナーとして職場では禁煙にするべきだから。

主題肯定派の意見に変わりはありません。肯定グループの人も言っていました。校内禁煙なら教員研究室も禁煙にすべきだと思います。もし教員でも吸いたい人がいるなら、教員でも喫煙所の場所で吸うべきだと思います。

タバコを止めるとこまでは行かなくても、研究室や周りにタバコの煙で迷惑をかけるような人のいるところでは、マナーとして禁煙にすべきであると思います。喫煙コーナーで吸うぶんにはいいですが、他人に迷惑をかける場合はやはり禁煙にすべきです。

先生方もやはり、喫煙所だけで吸うべきだと思います。生徒は不自由な思いをして、それを守って喫煙所で吸っているのに先生方は自分の研究室なら良いというのはおかしいと思った。研究室も大学の一部です。

## B. 主題否定派

非喫煙者などの人からすれば、禁煙にした方が良いと思うけど、自分は、学校の中で喫煙できなくなってきたから肩身が狭いし、ま

して、教員はストレスも多いと思うし、かわいそうだと思うから。個人的には肯定派だけど、あまりにも喫煙者がかわいそうだから否定派にした。

タバコは身体に悪いということはよく分かっているけれど、研究室という場所に限って良いと思った。館内ではもちろん禁煙の方が良いと思うが個人の部屋という意味で吸ってもよいと思う。

教員研究室を禁煙にすべきかという問題は各個人の判断であり、教授個人の判断に任せるべきである。私はそういった面で否定することはできないと思う。

頑固なのでたぶんすごく納得できる言葉ももらわないと考えは変わらないかもしれないけど、プライベートの部屋といってもいいくらいだから、タバコの害を与えているんだから。本当にやめるんだったら国が売るな。

キャンパスでの禁煙は大学内では未成年もいるので賛成ではあるが、研究室では多くの方は入らないし、担当の先生の判断で吸わない人がいれば吸わなければいいし、吸う人だけが集まっているなら、吸えばいい。だから一方的に禁煙にするのはおかしい。

自分も吸っているが、やめなくちゃダメだな～という気持ちになるような意見がなく、教員の禁煙を訴えるような発表になっていたから。

タバコを吸うのは個人の自由だし、吸わない人が迷惑だから禁煙にするというのは間違っているから。吸わない人がタバコを吸うのが迷惑なら、タバコを吸う人は吸わしてもらえないのが迷惑だと思ったから。

個人の研究室で吸うなら別にかまわないし、来客の方がみえた時だけ、禁煙してもらえばよいと思う。マナーを守ってもらえば、吸わない人も気にならないし、研究室はそんなに人が出入りしないと思う。だから、先生の研究室までも禁煙にすることはないと思う。

学校が禁煙になって（一部の場所を除いては）学校がきれいになったと思います。だから中京大学全体、つまり研究室を禁煙にするべきであって、そうすることでもっとよりよい環境

で勉強ができると思っていましたが、しかしディベートを参観してみても生徒ならば体、健康を害するから指定外での喫煙は禁止すると言われても、私は健康教育学部なのでまだまだ健康について勉強中なので、もっと知識がある先生や、学校から禁止されれば、「禁止されたから禁煙しよう」と思って禁煙をするかもしれません。教員、職員は健康につよく知ってらっしゃると思います。それでもタバコを吸うのはその人なりの考えがあるのだと思います。無理矢理禁煙（研究室を）にするのではなく、教員研究室に関係する人々全員が禁煙する意義を理解してはじめて教員研究室を禁煙にするべきだと思います。

自分の考えは禁煙にすべきかというのは、個人のマナーの問題であると思う。マナーが悪ければ禁煙にした方がよいが、特に法律を定めるべきではないと思う。大人なのだから・・・。

個人の権利を尊重したいと思った。研究室はその名の通り教授が自分の研究の為に学校から与えられた個人のスペースであって、訪ねてくる生徒に気づかって自分の研究をマイペースで行えないのであったら、研究室を設けている必要がないと思ったから。

ディベート前は、学内が禁煙になってきているというのに、研究室は禁煙にしないというのはおかしいと思ったが、ディベート後教員にもストレスがかかり授業が上手く行えなくなると、その害を受けるのは学生なので、研究室は禁煙にしなくてもマナーなどしっかりしていればいいかと思われま。

身体に悪い：ストレスが身体に一番悪いわけで、吸えないと言うことは本人にとって一番悪いのではないかと思う。仕事場だから：教員の仕事場であって、一番やりやすい環境でやらせるのが一番良いと思う。法律で許されていることを他人に禁止されるのは幼いと思う。喫煙は大人のたしなみであって、本人のモラルの問題だと思う。

もちろん否定派なのでどうしても肯定派の意見にパンチの効いた主張がない限り、自分の意志は変わらない。

身体に悪いのは、自分が一番わかっていると思うし、やっぱりタバコを吸っていると、吸わないとイライラしてくるし、自分の仕事をする場所は良い環境で勉強した方が良いと思う。

結局は個人のことであり、他人がその人たちの自由を削る権利はどこにもないと思う。ただ、吸っていない人のことも考えて、そういう人たちの前では吸わないようにしたり、その場を考えればわざわざ禁煙にすることはしない。

今回のディベートで、禁煙している側の考えも聞いたところで、自分は喫煙しない立場であるが、喫煙する人もしない人も考えを持って各個人責任を持っているので、考えを押しつけるような働きは必要ないと思う。

各個人の問題であり、何より研究室はその人の部屋であるため、別に吸っても良いと思う。

個人の部屋まで禁煙にする必要はないから。教員のニコチン切れによる教授の質の低下が心配である。我々学生は学問を究めるために学校に来ているので教員には万全の体制で講義を行って欲しい。

タバコを吸う人にも、それなりのマナーがあると思う。妊娠中の女性がいたら、抑えることができると思うし、生徒が入ってきたりした時は吸わないこともできる。だから完全に禁煙にするべきではないと思う。

今のディベートでは意見が変わらなかった。やっぱりタバコを吸うのは個人の自由だと思う。

否定派の意見は頼りなかったが、禁煙にするのはあまりにも強制的で、愛煙家の権利をとることになる。健康のことは教授など個人の意識の問題である。

学内で禁煙活動をやっているのだから、教員から率先してそれを行うべきであるとも思ったのだが、喫煙するしないは誰もいないところでの限っては個人の問題であるので、研究室で一人で吸うのには問題ないと思う。

喫煙している人は害があることは百も承知でしょう。自分ももとより他人にも。教員となるべき人は、それを分かって行動しなければいけないでしょう。人間性の問題で、別に禁煙にす

べきであるか決めることではないと思う。教育者としていいことか悪いことか。マナーを守るかなど。見るべき点は子供たちにどう認識させていくかだと思う。

ディベート前はやっぱりタバコを吸うのは吸っている人はいいかもしれないが、吸っている人にも何らかの悪影響を及ぼすので、これは個人だけの問題ではないと思っていたが、タバコを吸う人もそれなりのマナーは守って自分で責任がとればそれで良いと思う。

研究室を私的な場とするか公的な場とするかという問題である。個人のモラルに任せて良いと思った。

### 資料3. 体育学部の教員研究室を禁煙にできたら、それを高く評価するか（良い事とだと思おうか）

#### A. 主題肯定派

##### 〈肯定的意見〉

評価する。(22人)

高く評価する。(18人)

(とても) 良いと思う。(11人)

素晴らしいと思う。(13人)

大賛成します。

決定すれば大学のイメージとしても高く評価できる事だと思う。

体育学部の教員研究室を禁煙にすることを高く評価します。(8号館1階の自動販売機が喫煙所の中にあるのはおかしい!!いつも、中に入った途端気分が悪くなります。ジュースを買うだけの短い時間ですが、あそこに入らなくっちゃいけないのはおかしい。)

体育学部では健康について考える機会が多いので、先生と生徒全員が一体となって、禁煙運動をしていくべきである。

評価します。全員が納得しているなら素晴らしい!

高く評価する。見本、手本となる人が喫煙してはちょっと・・・?

すばらしい事だと思う。やっぱり先生はお手本であって欲しい。

する。まずは教員から禁煙に・・・。

もちろん評価します。中京大学から全国に広がればそれはなおいことだと思う。

すばらしい事であり、誇りを持てる。

いい考えだと思う。先生達も喫煙所で吸うべきである。

ぜひ、やってもらいたい。例外は認められません。

禁煙にすれば大学の良いアピールにもなるし社会的にも注目されると思うので高く評価できると思う。

評価する。大学から禁煙運動が広がっていけば良いと思います。

教育するものがタバコを吸っているのはおか

しいと思う。高校か中学の先生がタバコを吸っている生徒にタバコを止めろとか言えないと思う。高く評価します。

すばらしい事だとは思いますが、本来なら何もしなくても個人が解決すべき事だと思う。

タバコの害について大きくとり上げられる中、世の中は行動に移すことが出来ないでいるのが現状です。その一歩を踏み出した事は大きく評価できると思う。

体育学部の研究室が禁煙になるということは、評価するとかそういう以前に当然であると思う。健康を扱う立場である学部の研究室がニコチンや一酸化炭素まみれであること自体おかしいと思う。中京大も一刻も早くそうするべきだ。

評価する。禁煙に絶対にして欲しい。本来、教育者が話し合う最も大事な問題をすすめて欲しいと思う。学校は社会とは絶対違うはずだから、個人的なことは許されない。

それを実現するために様々な努力はあると思うが、実際、実現されて約束事となれば、それはそれで普通のようにとられていくと思う。

かなり高く評価する。なんなら世の中からタバコというものを無くして欲しいくらいです。

一つのことをやり遂げるのだから素晴らしいと思う。

素晴らしいと思います。是非進めて欲しいです。

学内禁煙賛成です。

いいと思う。タバコを吸わない自分にとっては当たり前のことだと思います。

体育学部として素晴らしいことだと思う。

まとまり有り良くなると思う。

#### 〈無関心を示す意見〉

どっちでも良いと思う。

あまり興味がありません。

#### 〈否定的意見〉

別に評価はしない。

評価しない。その事をするくらいなら歩行タバコとかを禁止する努力をした方が良いと思いま

す。それと全館禁煙といっているわりには、8号館に喫煙所があることがおかしい。

#### 〈その他〉

自分にとってはどっちであろうがなんら影響がないから、賛成の立場ではあるが、そこまで強制するのはどうか？

自販機と喫煙所を分けた喫煙所を作り、数ももう少し増やすなどして、愛喫煙家の人の立場を尊重すべきである。

その後が大切かと。

目標ができたらできたでいいと思う。

日体大がそうだからそうするというように聞こえたので、現時点ではあまり評価できない。もし、中京大の教員が自発的に行っているというのなら、それはとても評価すべき事だと思う。

## B. 主題否定派

#### 〈肯定的意見〉

評価します。(2人)

すばらしいと思う。なかなかできることではないと思うから。

すごく高く評価する。でもとても大変なことだと思う。

そうなったら吸っている先生がきついかもしれないけど、世間的に見たらいいことだと思う。

タバコを吸う先生の意見をきちんと取り入れたなら評価する。

中京大学全体を禁煙にするということはとても良いことだと思います。しかし、無理矢理禁煙にさせるのではなく(タバコの害・禁煙の意味)を理解したうえで行えばいいのではと思います。

大変すばらしいことだと思う。外からの来賓は大変だなとは思う。

#### 〈無関心を示す意見〉

どーでもいい。

先生たちが(吸っている)苦しくなって、しんどくなると思う。やってみたら別にいいと思

う。

#### 〈否定的意見〉

他がやっているから中京もこうしようという考えが強く感じられるので、その評価には賛成できない。

やらなくてもいいと思う。

他は他であって別に他がやっているから中京もするという事はおかしいと思う。

日体大は日体大。うちは中京である。大人はよく「うちはうち、よそはよそ」と言うくせに！別に全館禁煙じゃないから体育として恥ずかしいと言うことはない。

評価しません。

#### 〈その他〉

禁煙にするのではなく先生たちが各自、自発的にしているのなら素晴らしいことだと思う。

中京大学のレベルを落とす事になると思う。人に言われなければ禁煙にできないのかと思われる。タバコを吸っていいとき、悪い時は大人ならわかると思う。それを他人に言われなければダメなんてレベルが低いと思う。

### 資料4. ディベートを聞いての感想、又はディベートをしての感想

#### A. 主題肯定派

##### 〈ディベートをしての感想〉

難しかった。相手の意見に対してとっさに応答するのは大変であった。(否定グループ)

ディベートをしている中で今回の論題としては、肯定側がとても意見を言いやすかったと思う。自分の意見としても、肯定側であったため否定側の立場で意見を考えるととても辛かったと思う。(肯定グループ)

この主題と中京大学の現状からしてみても否定派はあまりにも不利すぎて、否定派の意見が曖昧にしか伝わってなかったので、肯定派の側からして有利すぎた立場のディベートである、とディベートの中でも感じました。(肯定グループ)

司会をさせて頂き大変緊張した。まだまだ不満な面もあったので、なかなか議論がかみ合えなかったと思います。(肯定グループ)

肯定派ということでもかなりやりやすかったが、自分たちが考えたことを上手に言えなかった。それに否定派の意見に少し納得するところもあり、結構楽しくディベートできた。(肯定グループ)

立場的に強い方だったと思うので楽でした。自分の考えをすぐにまとめるのは難しいと思った。(肯定グループ)

##### 〈ディベートを聞いての感想〉

肯定派、否定派の両方とも自分たちの意見をしっかり述べていて、きちっとしたディベートだったと思いました。

他の大学で行ってみてどうだったとか例を出してみれば、もっと説得力があったかもしれない。

喫煙者は自分の判断で吸っているのだと思うが、周りの迷惑を考えずにやっている人も少なくない。喫煙者に「タバコをやめろ」と言ってもすぐにはやめられないと思うので、禁煙にするというのを目標に、マナーを守って吸い、

徐々に禁煙にしていくという努力をしていけばいいと思う。

どちらの意見を聞いても、そうだなと思った。理にかなった意見である。自分がこうだといった意見を持ってないと、どちらにも流されてしまいそうだった。よく調べてあって良いと思う。

否定派の人の意見は、そうか・・・と納得できる意見が一つもなかった。喫煙するなどしている訳じゃないのに、急に禁煙にするのは難しいというようなことばかり言っていた。主題をちゃんと理解していないのでは？と思った。

お互いの主張がよく分かって、全く肯定、否定と言い切ることが難しくなったような気がする。どちらも納得できる内容だった。けれど結局最後は、自分の意見が主になってしまい、あまり立場が変化するのは少ないように思う。主題によるだろうけど。

肯定派はとても説得力があって良かった。否定派は少し無理があったような・・・。ちょっと否定派には難しいような主題だったと思います。

私は、主題肯定派だけれど、否定派の言い分もよく分かった。どちらの言うことも正しいから、ディベートを聞いていて、どちらにも納得してしまった。

二つのグループはきちんと調べて、ディベートできていたと思う。だが、もう少し聞いている人が興味を示すように、声のトーンなどを工夫してあげるようにすることでもっと良いディベートにさせることができると思う。

ディベートはもっと激しい討論が良かった。マイクを両サイドに置き、挙手で意見を発表したほうが良いと思った。

もっと激しく討論を交わして欲しかった。なかなか否定派には不利な題目であったかもしれない。若干論題からずれていった感じもあるので、題材をもう少し理解しづらかった。

両グループとも意見をしっかり持っていたので聞いている立場から見ているおもしろかったです。

肯定派の方が否定派よりも意見がしっかりし

ていた。研究室についての論議だけど、タバコの害のことも考えられたから良かった。

肯定派、否定派ともちゃんと調べてきたことをいえたことは良かったと思う。一つ感じたことは、否定派に反論ができなくなった時点で終わってしまい、他にっこむ意見があったのではと思う。

主観的な意見は説得力がない。科学的なデータを示すと説得力があると感じた。

ディベートになっていたのだろうか。「最終的には個人の自由」というのでは議論にならない。

肯定派はしっかりとしていたが、否定派はちょっと弱かったのもう少し対等にできるように準備できたらいい。全体的な流れとしては良かった。

肯定派はよく調べて自分の意見に取り入れていたようですが、否定派は、自分の考えだけで話していたので、もっと資料を集めるべきだと思います。

禁煙はとても良いことだと思うが、愛煙家がどんどん批判されていたので、タバコを嫌いな人も愛煙家のことも考えて、二つの意見が上手くプラス面だけ組み合わせられればよいと思った。

お互いの意見をしっかりと聞いていて、それぞれがバラバラな事を言いなかつたので良かったと思った。あと進め方も良かった。スムーズだったので良かった。

ディベートをしていた人の意見でどんどん観点がずれていったのがむなしかった。

議論できる力をつけることが、世の中の様々な問題を解決する手助けになると思いました。

自分以外の人の意見が聞けておもしろかったです。

このディベートによりさらに喫煙について考えさせられた。自分は喫煙しないのでそちら側からしか見ることが出来なかつたけど、客観的に見ることによって新たな発見もあるのではないかと思った。

肯定派の意見は教員研究室の禁煙ではなく、教員個人の禁煙を進めている印象を受けた。

同じ意見の繰り返しばかりで、ちっとも結論が出ていなかったのでは……。

ディベートを行うことで肯定派、否定派どちらの言い分も聞いたけど、今までと意見が変わったりした人も出てくるかもしれない、多くのことを学べるので良かった。

主題に対しての肯定派、否定派両方に言えることだけれども、一つの観点しか見ることが出来ていないように思えた。色々な観点から物事を言うて欲しかった。

個人的なことしか考えていなかったのもう少し説得力がなかった。中京大学が全館禁煙になっているので教員研究室も禁煙にした方がよい。

マナーをしっかりと守ってもらえば、問題はないと思います。しかし、研究室は吸ってよくて、大学の校舎内は禁煙というのは少しおかしいのではないかと思います。研究室も禁煙にすべきだと思います。

文章を棒読みな感じがして、ディベートらしくなかったと思う。もっと自分たちの意見をもっと出し合って欲しかった。

肯定も否定も確かに両方の言い分が分かったから、一言で「ダメ」と言えなくなった。

ディベートを聞いて、研究室がどういう場所かということを考えれば、研究室での喫煙は間違っている。又中京大学は、学校をあげて禁煙活動を実施しているにもかかわらず、学生の出入りのある研究室、また生徒の見本である教師ということを考えるとタバコを吸うべき所を考えるべきである。喫煙所はあるはずです。

タバコは吸いたい人が吸っても別に問題はないと思うが、他人に迷惑をかけるような吸い方は絶対ダメだと思う。なので、喫煙場所をもっと特定してもよいのではと思う。

やはりタバコの問題に関しては、タバコの吸わない者が優位に立って愛煙家に対して、断固立ち向かうべきである。教員も公の場で堂々と吸うのは、やはり見苦しいと思う。研究室は本来開けた場なければならないのに、もしそんな中でタバコを吸われてしまったら、タバコ嫌いの生徒には入りにくい場になってしまうと思

う。これはまずいと思う。

なかなか良い雰囲気では話が展開されていたと思う。研究室を禁煙にすることで、その教授がタバコの本数がへるかもしれないということは思った。

やっぱり自分と同じ意見だったので、自分の考えは正しいと思った。でも最後は個人の意志の問題だと思う。

お互いの持論をぶつけ合い戦えたと思う。この問題は教授、学生の意見を十分出し合った上で、決めていかなければ問題は解決しないであろう。

やはりタバコを吸うことはよくないことであると、いっそう感じた。副流煙が特に体に悪いことも分かったし、タバコを吸う人の数がだんだんと減って行って欲しいなと思った。

愛煙家にとっては、タバコを吸えないとストレスがたまり集中がかけるかもしれないが、長い目で見れば、この先吸うか吸わないかで健康にも影響は出てくるし、タバコをやめればプラス面が多い。吸わない人のことを考えれば中京大全体で禁煙にするのだからやめるべきである。

いまいちディベートになっていない。知っている知識ばかりであり考えも変わらない。

ディベートをすることは良いと思いました。他人の意見を聞くことができる、というのは、それに反応して、自然と自分の考えも明確になるからです。これはいわゆる話し合いの場になり、人とのコミュニケーションの場にもなっています。実施者たちも、自分たちが発表するとなると、例えやむを得ずと言っても、調べたり、考えたり少なくとも必要最低限することになり、それをきっかけに考えを深めていこうとするかもしれないし、聞く側も評価する以上、主題について考え、人を評価するには、自分を評価できるように高めなければなりません。前者と同じく、これを機会に主題について考えを深める人も出てくるのではと思います。

反対派の意見は、全て自己中心なことばかりだと思ふ。周りの事を考えず、個人の自由である、個人の部屋だから吸っても良い、傲慢な

態度であると思う。私達は高い学費を払って大学に通っている。こんな傲慢な教授に教えてもらいたいとは思わない。

それぞれの意見がちゃんとあって聞いてわかりやすかった。

肯定派も否定派ももっともな意見を述べている。たくさんの面で両方ともプラスの面をさかして述べていた。両意見とも納得するところがありました。

吸う側としては「個人の問題」とか自由を尊重しているが、周りにも害が及ぶし嗜好品（タバコ）であると言うことを、すねに念頭に置いて議論を進めていって欲しい。

それぞれいろんな意見があった。両方の意見に納得するところもあったけれど、私自身がタバコに反対なので、肯定派の立場を変えることにはつながらなかった。タバコに大反対っていうわけではないけど、マナーはしっかりと守って欲しいと思います。

やはり禁煙の方の勝ちという感じ。喫煙者に強い意志さえあれば何とでもなることである。甘えがあるから、イライラをタバコで抑えたりしていると思う。先生という立場であるからには、「責任のある行動」が必須であると思う。もっと教員であることを自覚して欲しい。教師が周囲に害を及ぼすなんて滅相もないとつくづく思った。

肯定否定は勝手に決められるので、思っていた方と違う方でも、みんなを説得させようとしているのは、とても良かったと思う。しっかりと調べているので納得させられるところが多かった。みんながそれぞれの意見を持ってぶつかり合うことは良いことである。

肯定否定それぞれの派の方が、喫煙についての詳細を調べていて説得力があったと思います。ただ、否定派の方が少しキレて話をしてるのが気になりました。話し合いなので、自分の意見を信じて、冷静に話すべきだったと思います。

否定派の個人の自由という言葉がひっかかります。吸う人の自由を考えていますが、吸わない人の自由はどうなるのでしょうか。しかし、税

金を払っていて成り立っているという点は私も少し忘れていたことで、思い出すことができて良かった。肯定派の大学全館を禁煙にしているのに、研究室も禁煙にしないのはおかしいという意見にはとても賛成です。

肯定派はかなり自分の意見って感じで、説得力があったが、否定派は言い訳っぽく聞こえた。（自分が肯定派だからかもしれないが）あと、教授が禁煙するのと、研究室を禁煙にするのは少し違うので、論点がズレたと思う。

なかなか考えてきていると思った。タバコの悪さをあらためて考え直しました。タバコは自分の好きで吸うのだけれど、色々なことを考えればタバコに関する考え方が変わるのではないかと思いました。

肯定派も否定派もよく調べてあると感じたけれど、尋問に対して臨機応変ができればもっと良かったと思う。

結構考えてきたと思った。中学の時にやったことがあるが、その時はなかなか上手くいかなかった記憶があります。

各グループともちゃんとした意見を持っていて良いと思った。いろんな意見を聞いて、勉強にもなるし、自分の考えを見直すきっかけになると思います。

両方のグループともよく考えて発言していたように思う。しかqし、肯定グループの発言の方が、はきはきと受け答えができていて良かったと思う。タバコはタバコを吸っている人はもとより、煙で他人にも害を与えるので研究室は禁煙にすべきであると思う。

話を聞いていてタバコを吸うのがプラスになるということは何もなかった。否定グループでも、被害は自分だけで良いとか、他の人に迷惑がかからなければいいとか結局はマイナスになることしかないことが分かっているならやめればいい。

もっと激しいディベートになるかと思ったが、そうでもなかった。肯定、否定ではどちらかというとな否定の方が難しいと感じた。先生が否定派の立場でディベートしたら、どういう否定するのか聞いてみたいと思った。



否定派の意見で、先生になる人はタバコのポイ捨てをしないと聞いたが、本当にそうなのかと思った。禁煙にして、教授がタイマンになるような人は、先生には向いていないと思う。

否定派の立論は研究室のことというより個人の禁煙のことを言っていて、ちょっとずれていた気がする。でもどっちの意見もしっかり資料を集めていて、すぐ回答が出ていたので良かったと思う。

タバコの問題はいつの時代もついてまわるものだと思う。この問題は個人をとれば周りに迷惑がかかり、周りをとれば個人の権限が無くなってしまう。非常に難しい問題ではあるが、個人が集中したものが団体なのだから、個人に我慢してもらうしかないと思う。みんながいるところではなるべく喫煙を控えてもらうしかないと思う。

主題の内容がやや肯定派有利に思えたが、肯定派の方は具体的な意見があったが、否定派には納得させられる意見があまり無かった。

今は、タバコは体に良くないからやめた方がよいという社会になっているから、否定派は難しかったと思う。ちょっと肯定派が主題からはずれていったような気がします。

自分が肯定派だから肯定の意見を尊重してしまふんですが、やっぱり、学校がキャンパス内を禁煙にするといった方針で行っているので、禁煙にするのが妥当だと思いました。

互いの意見が頻繁にとびあって、良かったと思う。参観、評価者にとっても一緒に考えられたのでこのディベートは良かったと思う。

肯定派、否定派の意見は良くわかったが、その後からの質問や反対尋問などは、少し主題からはずれてきた感じがした。自分の意見を発表しただけで尋問や答えがなかったような気がする。

シナリオが決まっているようでおもしろくなかった。前から調べておくのは重要だが、言葉が決まっていたらディベートとは言えないのでは。

肯定派の中にも個人的には否定意見だという

人、また逆に否定派の中でも私は肯定意見だという人がいるなあ。しっかりと自分の派閥内の意見を述べる事ができていないのでは？と感じた。

肯定派の意見を聞くと、なるほどと納得のいく意見だと自分は感じ、逆に否定派の意見は苦し紛れの意見だと感じました。

否定派の意見は何か苦し紛れの発言のようなものが目立った。最後には「個人の問題」として片づけるのがやっとならざるを得なかった。否定は、禁煙による良いことが豊富であることを背景に、ディベートを優位に進めていた。

資料的な物を取り入れているように感じた。良い流れができていたと思う。

色々な立場から考えなければならないので難しいと思った。自分の主張を持ちながらも、相手の意見に対してすぐに答えなければならないのがディベートの難しさだと思った。

社会的に考えると、禁煙にするということの方が認められることなので、否定派の人は難しいのではないかなと思う。社会的に見ても5分5分な内容の物をやると良いと思った。最終的に教員研究室での禁煙というものをもっと大きく取り上げるべきだと思う。

やさしい喧嘩を見ているようだったが、お互いの意見を聞いていると、私自身肯定派と否定派を行ったり来たりしていた。

自分が吸わないので、どうしても肯定派になってしまうが、否定グループの意見もすごく納得させられるものも多かった。あと肯定派の方の最終弁論がすごく説得力があったと思う。研究室が先生一人で使用する部屋なのか、大勢で共有するのかが分からなく、2グループの論点がずれているところがあった。

もともと否定派は立場的に難しいと思いました。ただ、肯定派はあらかじめ意見をまとめているし、資料を集めていると思った。

肯定派の意見に賛同しているためか、肯定派の意見がまともに聞こえた。

お互いの決定打がなかった様な気がする。途中で話し合いの内容がずれていることもあった。

中京大学が全館禁煙の方向に進んでいるのに、研究室が禁煙にならないのはおかしい。喫煙コーナーじゃない所でもタバコを吸っている人がたくさんいるので、すごい迷惑。

この題は否定派には辛いと思うけどいくら否定しても喫煙という悪いイメージは変わらないので肯定派に自分も入ってしまう。喫煙している人から見ると、研究室だけでも良いじゃないかと思ってしまうかもしれないけど、吸わない人から見るとすごく迷惑な話だ。

ディベートを聞いて、今まですでにタバコは体に悪いとか、肯定的な講義を聴いていたので、肯定派が有利になってしまったと思う。

ディベートをたまにするのも良い。自分の意見をしっかり述べる練習にもなる。

タバコに関しては、どちらにも言い分があって両方共に納得する部分がある。しかし、肯定派の人たちが言っていたけど、タバコを吸わない人たちにも影響を与えてしまうので、どうしても肯定派に賛成してしまう。

否定派から出た、各自判断やマナーはあるという言葉で個人が自粛できるのなら、強制しなくても良いと思ったのですが、今はそれができていないと言うことですね。

司会の方がスムーズに進めていてまとまっていた。肯定否定の意見もそれぞれしっかりしていた。どちらの意見も賛成できる点がいくつもあった。

肯定派は様々な問題点を持ってきていたが、否定派は材料が少なかったと思う。どこが一番大切な論点かもしっかり示した方が良いのでは？

否定側の意見を聞いてみて、国で認められているからという点において、自分もそれもそうだなと思ってしまった。が、タバコを吸っている教授が禁煙になると、授業がおろそかになると言っていたが、むしろ健康になって末永く授業ができるようになるなと思った。あともう少し、言葉をはっきりと顔を上げて話した方が良かった。

肯定派の人たちの意見には納得することが多くてとても説得力があった。意見を述べるのな

ら、やはりしっかりと調べて裏付けのある意見を述べなければ、個人的感情な意見だけでは、説得力がないと思いました。

やはり自分の意見がはっきり決まっているだけに肯定派の意見にはうなずけるし、反対派の意見は聞き流してしまう。まあ自分としてはマナーを守り、喫煙所でタバコを吸うぶんには別に文句はない。

それぞれ自分たちの意見をしっかり言えて良かった。

かなり詳しく調べてあって、喫煙していた人が禁煙するとその後どうなるかなどよく分かりました。反対に禁煙するとどんなメリットがあるかも分かりました。こういうディベートをして禁煙が徹底されればいいけど、結局何も変わらない気がします。自分の問題だと思います。

肯定派の方が、主張の内容展開などが上手かった。否定派は個人の問題という言葉ですまそうとしていた気がする。

やっぱり禁煙への第一の理由は体に悪いところ、禁煙すればまず損をすることはない。

人の前でしゃべるのは、やっぱり緊張するのだなと思った。

主に否定派の人が、肯定派に対する反論ではなく、一方的な自分の意見だったので、もと反論して欲しかった。

途中、論点がずれていたように思えた。研究室へ出入りする生徒への影響はたいしたことがないと思う。これは筋を通す通さないという問題だと思う。

肯定派が圧倒的有利なのは、初めから分かっていたが、そのままつまらなかった。

否定派の人たちの意見は苦しいものがあったと思った。タバコがいい影響を与えることはないと思った。

タバコの問題は非常に難しい問題。

「研究室での喫煙」については、様々な考えがあるのだということに気づけた。

喫煙についてのいろんな意見が聞けたり、個人によつての考え方の違いが聞けたので良かった。

主題否定派に無理があるように思われた。大前提にあるのは「タバコは人体に害を与えるもの」というものである以上「教員研究室を禁煙にすべきだ」という主題を否定するのは難しいようだった。否定的、今回のディベートは肯定派が有利であるようだ。

もう少し全ての学生が発表できるようにと、その発表しているグループだけでなく参観している者を指名するなど、みんなが参加できるようなディベートができればと思った。

どちらのグループももっといろんな事を調べてからディベートをして欲しかった。これという意見があまりなくて説得力がなかったように思う。もっといっぱい意見の出し合いがあっても良かったかな？と思った。論点が教授の禁煙になってしまっていたような気がした。

声が小さい人や聞き取りにくい人がいたんで、声の小さい人はもうちょっと大きく、聞き取りにくい人は、はきはきともう少し高い声でしゃべってくれれば良いと思います。

とっさに色々考えなきゃいけないので大変だけど、全員上手くやっていたと思う。タバコについての体への影響や知識がまたよく分かった。それに、タバコを吸う人がやめられないという気持ちも分かった気がする。

肯定派と否定派の意見を聞いたがどちらもわかりやすかった。研究室は各先生個人の部屋というのはわかるが、生徒に教える立場なので吸わない方が良いと思いました。

意見をたくさん聞いて、それについて討論できるので良いと思います。

喫煙についての意見交換が聞けたし、色々考えさせられて良かった。

やはり否定派の意見を聞いても、全然その言葉をひっくり返せるものばかりだと思ったし、喫煙することで何一つ利益は生まれなし、それどころか他の人に迷惑をかけると思いました。

個人の考えが大切だと思いました。基本的に自分の意見は変化しませんでした。

肯定派が攻撃的で聞いていて面白かった。もっと両方の側が意見を言い合えろというディ

ベートができると思う。

ディベートで自分の意見をしっかり相手側に主張するためには堂々と述べるべきだと思う。自信なさげに言っていることが時々あったので。

肯定派、否定派が自分たちのもっている考えを矛盾することなく訴えている所が素晴らしいと思った。また、相手側を悪く言うこともなく、聞いていて不快感も無くてよかった。

両方のグループの肯定、否定の意味がわかりやすくよかった。しかし、肯定の人の意見が長いのに対し、否定の人の意見がすごく短い気がした。

私は肯定派だったので、否定派の意見には納得する点など無いと思っていたが、少々うなずける意見もあってディベートとは、そのテーマについてよく考えさせるものだなと思った。今日のテーマのように実際、自分たちに関するテーマだと盛り上がると思った。

お互いの意見を交わしあい、意思が通っていた。このような意見を交わす場は現代社会においても必要だと思う。

はじめの派としての意見は、もう少し詳しく話した方が良かったと思う。実際に何がこうしてこうだ。とか具体的な例とかがあった方が良かったと思う。時間ぎりぎりまで意見があったので良かったと思う。

「研究室は大学の所有物であり、学内が禁煙とされているのに研究室は喫煙が許されているのはおかしい」という意見が説得力があった。また、禁煙を命令しているのではなく、マナーとして、健康のためとして、研究室では禁煙をすべきであるという、一貫した主張がみられた。また、副流煙の悪影響といったきちんとした根拠があった。それに対し、反対派は抽象的で明らかな根拠に基づいた主張が無く説得力があまり無かった。

中京大の学舎が全館禁煙と新聞にも載っていたし、TVでもとり上げられていたのに、実は研究室だけは喫煙しても良いなんて、おかしいと思うので肯定グループに賛成です。

肯定派も否定派も、自分の考えをしっかりと

もって発表ができていた。後半はまあまあできていたけど、はじめはただ意見というだけで、相手の意見に対しての尋問のやり取りがあまり見られなかった。

肯定派と否定派の質問と解答があやふやでちゃんとしていない面が気になりました。ディベートは、その場に応じて答えを考えないといけないので考えをまとめておく必要があると思いました。

肯定派も否定派も様々な意見を述べたが、お互いの意見で納得する事もありました。自分の意見をしっかり考え、相手に説明する事が大切だと思いました。

活気があってよかったのですが、発表する態度や話し方をもっとしっかりした方が気持ちよくみていられたと思います。

## B. 主題否定派

### 〈ディベートをしての感想〉

人の前で話すのはやっぱりしっかりとした下調べ、しっかりとした態度が無かったらダメだと思った。ディベートは相手の言ったことを考えて意見を言わなくてはならないので、難しく感じました。(否定グループ)

自分は否定派でディベートに参加したが、相手チームの準備のよさに圧倒された。自分の言葉で思っている事を口にするのは難しい。(否定グループ)

質問に対して応答する事が難しく、対応に困ったことがあった。しかし、一つのテーマについて肯定、否定していくことは大変素晴らしいと思います。(否定グループ)

### 〈ディベートを聞いての感想〉

長い間タバコを吸ってきたことを急に辞めるのは無理だし、ニコチン中毒の話もあるし、各個人のモラルに任せるべきだと思う。頭からダメと決めたのであればやっぱり人間反抗すると思う。

肯定派は理論的にばかり尊重して、吸う人の気持ちを考えていない。否定派は吸う人の気持ち

を考えている。どちらがいいとは言えないが、吸う人吸わない人分かれている今、和解はなさそうだと思う。

両者とも今回の問題について、真剣に話していた。このようなことをやっているものを見るのは、はじめてでこのような話し合いは、たびたびするといい意見交換になり、自分が気づかないこともわかるような気がする。

ディベートの主題は教員研究室を禁煙にするだったのが、ディベートの内容は「タバコを止めるべきだ」に内容が変化していたような気がする。

喫煙はやめて欲しいと思う。しかし、学生は指定の場所、先生は研究室で吸えば、まだいいと思う。決してこの場所で害を与えないわけではないと思うが、研究室でも強制的に禁煙にする必要はないと思う。賛成反対意見両方を聞いて、作戦タイムに自分もじっくり考える事が出来ました。今までタバコについてたくさんの授業を聞いたが、最もタバコについて考える事が出来た。

今回は自分たちの考えでどちらかに分かれたのではなく、決められたので少し主題否定グループは不利な感じがあった。

非喫煙者と喫煙者の意見の交換であって研究室での禁煙という主題に合わないところもあって、無理やりこじつけで「~だから研究室は禁煙にすべきだ」という言葉になっていたように思った。

お互いの意見を激しくぶつけ合っていて良かったと思います。ディベートで最終的には否定派に賛成したがどちらの意見も正しい気がした。

もう少し調査が足りないというか、資料が足りないように思えた。討論に発展がなかったようにも思えた。

両チームともしっかり調べ、対策を練ってきているなど感じました。でも何か両チームともしっかり納得できる主張がなかった。

調べたことをいっぱい意見していて、難しいことだけど良かったと思う。

両方ともそれぞれの意見をもって発言できて

いたと思うが、肯定の方が意見をしっかりとって発言できていた。否定の方が主題と意見がちょっとずれていた気がするので、あまりおもしろくなかった。

各グループの発言を聞いて、お互い間違っていないが一方が喫煙者を悪者と見たような発言が多く、あまりおもしろくなかった。

言い合いが少なく、どちらも説得力がないため、どちらの意見がいいか迷っていた人は決めかねると思う。

質問に対しての答えをもっとはっきりさせて欲しかった気がする。

否定派が押されていたが、自分の意見は変わらない。なぜなら、全館禁煙 OK にして欲しいので。教員研究室は我々愛煙家最後のとりでといえよう。

否定派の意見に力がなかった。もう少し意見を対立できたらよかったと思う。

まだお互いに相手の意見に上手く対応できていなかったと思う。

否定派の人の説得力がなかった。それと逆に肯定派の人たちは健康、マナーを中心に実例をあげて説得力があった。

賛成派、反対派ともに活発に意見を出し合っていてとても上手なディベートであったと思う。しかし、時折内容とそれていた部分があったのではないかと思った。

話し方がちょっとしどろもどろしている所があっけごちなさが全面的にでていた。慣れないから当たり前の事ですが。でも、双方それなりに意見をまとめて発言していたから、それなりに流れはよかったと思う。

お互いもっと激しい言い合いが聞けるとよかったと思う。途中研究室という論点がずれてしまったと思う。